

## 白斑外来のご紹介

白斑外来は毎週木曜日の14時から17時まで、医師2-4名でおこなっています。白斑外来を受診するためには、皮膚科の新患外来で診察、検査などを受けてから予約が必要になります。皮膚の色が抜ける疾患はたくさんありますが、白斑外来では主に尋常性白斑の患者さんを診察しています。

### 尋常性白斑について

- ・ 尋常性白斑は、後天性に色が完全に抜けた斑が体に出現してくる疾患です。人口の0.1%程度に見られるといわれています。原因は、自己免疫が関係していると考えられていますが現時点では解明されていません。尋常性白斑に合併しやすい疾患として、甲状腺機能異常症や膠原病などがあり注意が必要です
- ・ 尋常性白斑には、二つの型があります。一つは分節型と呼び、体の片側にしか白斑が出現しない型です。もう一つは、非分節型といい全身に白斑が出現する型です。一般に非分節型は分節型よりも難治性で、症状が落ち着いている時期と白斑が拡大していく時期を繰り返しながら進行していきます。

### 白斑外来での治療について

- ・ 日本および欧米のガイドラインを参考にしながら、外用療法、光線療法、手術療法をおこなっています。その他に日常生活の注意点やカバーメイクなどについても説明しています。
- ・ 外用療法：ステロイド外用薬やビタミンD3含有外用薬、タクロリムス軟膏を用いて治療します。効果が出てくるまで、最短でも2カ月程度かかり、一般的に半年以上はかかる治療法です。ステロイド外用薬が基本になります。最近では、顔や首の白斑にタクロリムス軟膏が効くとの報告が増えているため、それらの部位にはタクロリムス軟膏を使うことが増えています。
- ・ 光線療法：現在の白斑治療の主力になっている治療法です。専用の機械を用いて白斑に紫外線を照射します。照射する紫外線の波長の違いによってNB-UVB療法とエキシマライト療法の二つがありますが、当科ではどちらの治療法もおこなえます。治療開始当初は、週1回程度の通院が必要になります。治療効果が判明するまでに15-20回程度必要で、治療効果をだすためには、そこからさらに数十回の照射が必要です。
- ・ 手術療法：外用療法と光線療法で効果の出ない患者さんが対象になる治療法です。白斑が拡大傾向にあるときは、手術療法はおこなえません。当科では、1mmパンチグラフト術とスマッシュグラフト術という二つの手術法をおこなっています。手術の詳細については、文章で書くのは難しいため外来受診時に説明しています。白斑の部位や大きさ、患者さんの年齢などによって、局所麻酔や全身麻酔、入院手術や日帰り手術など適切な方法を選んで手術を行っています。脱毛症外来のご紹介

東北地方には脱毛症外来のある病院が少ないため、当院には多くの円形脱毛症患者が紹介されます。月曜日の午後に円形脱毛症の専門外来を開設しており、毎週50-60人程度の患者さんを診察しています。中等症例から重症例を中心に、患者さんの重症度や年齢等を考慮してステロイドセミパルス療法、ステロイド局注療法、局所免疫療法（SADBEまたはDPCP）、ステロイド外用療法など、できるだけ日本皮膚科学会のガイドラインに沿った治療を行っています。